

現代ペルシア語における人称表現の使用実態

親族間の会話における呼格的用法と代名詞的用法の対称詞

セペフリバディ・アザム

はじめに

会話において話し手が聞き手を指す時、どのような「人称表現（呼び方）」を用いるのか。これは、両者の関係を築く上で、重要なファクターの一つである。これは、一般にそれぞれの言語の特徴に応じた特性を有するが、一般的に話し手と聞き手との人間関係と場面に依拠して使い分けられる。特に、異文化接触場面のコミュニケーションでは、話し手と聞き手間の呼び方、呼ばれ方で、違和感を持つ場合があり、時には誤解の原因となりうる。円滑な人間関係を構築するためには、相手や場面によ

って人称表現を適切に使い分けることが重要だと言える。

日本語の「人称表現」は、「呼称（表現）」、「名称」、「呼びかけ（語）」などさまざまな用語が用いられる。また、同じ用語でも、研究者により定義が微妙に異なる場合もある。本稿ではペルシア語の「人称表現」の実態がテーマであるので、日本語の「人称表現」という用語を使用することとするが、先ず日本語の「人称表現」に関する主な先行研究を以下に概観する。

「人称表現」は、「呼称」とも称される。この「呼称」は主に国廣哲弥 (1990) によって確立されたが、これは、「address form [term]」の訳語として導入されたものであり、英語と同

義の「話し手に直接に呼びかけたり、言及したりする語」である。具体的にいうと、固有名詞、人称代名詞、親族名称、職業・役割名、地位・役職名、また、敬称 (Mr. Ms. Dr. 等) や呼称接尾辞 (さん・くん等) などが挙げられる。本稿が考察の対象とする「人称表現」は、国廣の「呼称」と重なる。しかし、「呼称」という表現は、日本語では呼びかけ語のみを指すこともあるので、本稿では「人称表現」という名称を採用する。

鈴木孝夫 (1973) は、人を表すことばの分類として、人称代名詞などのカテゴリーを用いるのではなく、話し手が自分自身に言及するあらゆる表現を総括する概念として「自称詞 (terms for self)」、話し相手に言及する表現の総称として「対称詞 (address terms)」という概念を用いるべきであると提唱した。さらに、彼は、対称詞を「呼格的用法 (vocative use)」と「代名詞的用法 (pronominal use)」に下位分類している。例えば、子どもが母親に対し「お母さん!」と直接呼びかける場合は呼格的用法、子どもが母親に腹を立てて「お母さんなんて嫌い」という場合は代名詞的用法である。この区別は、インド・ヨーロッパ語族に属するペルシア語の人称表現を考察する上で極めて重要である。そこで、本稿ではこの鈴木の見方に従い、ペルシア語の人称表現を、呼格的用法と代名詞的用法に区別して議論を進めることにする。この点が本稿の重要な前提で

ある。

また、鈴木 (1973) は、親族間の会話における呼びかけ方を観察し、「目上・目下」による呼び方の原則を見出し、この親族間の原則は社会的場面にも当てはまる可能性があると指摘している (一四六—一四八頁)。この点もまた、イスラーム社会であるイランにおける人称表現の使い分けにとって重要であり、必要に応じて参照する。

なお、国廣 (1990) は、「話題にされる第三者を指すのに用いる語」である「言及称」を「他称」として位置付けている。確かに同じ代名詞的用法であっても、目の前の相手にたいする呼びかけとして使う場合と、目の前にいない人を話題として取り上げる言及称の区別は重要である。しかし、言及称は、例えば、友人の前では「おやじ」、先生の前では「父」、母の前では「お父さん」などと呼び分ける場合があり、それを考慮すると質問紙の内容がかなり煩瑣になる。特に、今回の調査では、対象者に小学五年生を含んでおり、年少者には代名詞的用法と言及称の区別が困難である恐れがある。そのため、今回は考察の対象から外し、呼格的用法と代名詞的用法の区別に集中することにした。

インド・ヨーロッパ語族の諸言語の中でも、英語、ドイツ語、フランス語等の人称表現全般に関する研究は数多く存在するが、

イランの公用語であるペルシア語の人称表現はこれまで研究対象とはなることが少なかった。そうした中で、Mohammad Hosein Keshavarz (以下Keshavarz) の論文(1988)は、現代ペルシア語の人称表現を語る上で欠かせない文献である。Keshavarzは、ペルシア語人称表現を以下に概説する。

ペルシア語では、一般的な“address form [form]”である人称代名詞以外に、男性への敬称「*agha* (آقا)」女性への敬称「*khanom* (خانم)」敬称に苗字を加える表現「*agha-ye + 苗字* (苗字+さん)」「*khanom-e + 苗字* (苗字+さん)」がある。また、敬称に職業や地位を加える表現として、「*agha-ye doktor* (男性の医者・博士号取得者) (آقا)」「*agha-ye mohandes* (男性の理系学士・修士号取得者) (آقا)」などがある。一方、親族名称「*dadash* (兄弟)」「*abaji* (姉妹)」など以外に、宗教的敬意を示す表現、例えばイスラーム教の聖地メッカへの巡礼を経験した者 (*hajj*) に対して用いられる「*hajj agha* (男性巡礼者)」「*hajj khanom* (女性巡礼者)」「親愛を示す表現「*azizam* (私の最愛の人)」「*nur-e cheshmam* (私の目のように大切な人)」「*delbandam* (私の心に常に住む人)」「社交辞令 (*taiarod*) が反映された表現「*sar-waram* (私の主人のような人)」「*tābe sarām* (私の頭の上の冠のような人) 等も挙げている。

ところで、Keshavarzは、イラン革命の結果、旧来の権力構造に基づく複雑な人称表現が単純化され人称表現の民主化が進んだものの、イラン革命は民主化革命であると同時に、イスラームへの回帰を目指す革命であったため、イスラーム的な人称表現は革命後も比較的豊富に残っている点も指摘している。

イランの国教はイスラームで、イスラームの聖典『コーラン』に基づく教育の影響は大きく、学校教育など公的場面から、私的な家庭生活と、日常生活に亘って、イスラームの教えと慣習が重要な位置を占めている。そのため、年長者が尊敬され、家族関係が重んじられる伝統が若い世代においても維持されているのである。このことは、Keshavarz 意外の研究者も同様に強調している。例えば、Saberi (2002) は、ペルシア語の特徴として、他の諸言語に比べ、「呼称」に宗教的慣習、友愛・親愛の情、社交儀礼などの影響が如実に表れている点を挙げている。

最近ではAghagolzadeh (2011)も、日常的なイランの社会生活には上に挙げた要素が話し言葉に欠かせないことを主張している。さらに、彼は、話し手と聞き手の属する社会背景にも着目し、両者間の差異によって、呼称が使い分けられることを指摘している。

ペルシア語は、インド・ヨーロッパ語族に属するため、人称

代名詞の使い方は単純であると見なさがちであり、また、イスラーム社会の中にあつて、宗教的な文脈でのみ人稱表現が規定されると単純化されがちである。それは一面の真理ではある。

しかし、吉枝聡子(2000)が指摘するように¹⁾、イスラーム社会では、少なくとも公的な場では宗教的に男性社会と女性社会がはっきり区別されているにもかかわらず、現代ペルシア語には男性語や女性語はあまり見受けられないとされ、その実態は一樣ではない。

特に、家庭内で用いられている人稱表現は、日本語でもそうであるように、家庭によって大きく異なる。筆者のイランにおける調査でもその多様性が明らかにされたが、本稿では、首都テヘランのイラン家庭内で、ペルシア語の人稱表現がどのように使い分けられているか、その実態を報告することを目的としたい。

本稿では、一般的なイランの親族間のペルシア語会話において用いられる対称詞について、特に話し手の年代(成長段階)及び性差に注目して分析を行う。ここで言うところの親族とは、回答者の父母、兄弟姉妹、父方と母方の祖父母である。この分析のための資料として、筆者は二〇一〇年に、テヘラン在住の小学生から新社会人までのイラン人に対して、世代別・性別にアンケート調査を行った。筆者の知る限り、これまでこうした

横断的な実態調査はほとんど行われていない。その点で、本稿は、イラン社会におけるペルシア語の人稱表現研究に対し、貴重な一次資料を提供できると考える。

本研究は、言語体系と言語使用の接点の問題を分析対象とする社会言語学的手法を採用する。すなわち、本稿は、対称詞のバリエーションの選択に関する記述・分析を通して、現代イランにおけるペルシア語の言語体系と言語使用の相互関係を明らかにするための基礎的研究として位置づけることが可能である。

1 調査方法

1-1 アンケートによる調査

本研究を実施するにあたり、イランの首都テヘラン在住のペルシア語を母語とするイラン人二五〇人を対象にアンケート調査を行い、その結果を集計、分析した。

1-2 質問項目

本調査では、親族間の関係の違いによるペルシア語の対称詞の使い分けを検討するため、話し手を基準として、同世代、異世代の「目上」と「目下」の関係にある親族を設定し、それぞれの親族に対し、何と呼んでいるか、調査対象者に尋ねた。回

表1：調査対象者の性差および人数

性差	小学5年	中学校2年	高校2年	大学2年	社会人2年目	合計
男	25名	25名	25名	25名	25名	125名
女	25名	25名	25名	25名	25名	125名
合計	50名	50名	50名	50名	50名	250名

答は自由記入式で行った。その目的は、できるだけ多様な対称詞のバリエーションを収集して類型化し、その類型からペルシア語における対称詞の使い分けの傾向及びその特徴を探るところにある。なお、回答者には、それぞれの親族と対面して会話するという状況を想定して回答してもらった。

2 ペルシア語の対称詞

鈴木孝夫 (1973) によるとインド・ヨーロッパ語族の諸言語は「その起源を共有していたため、今でもこれらの諸言語には、共通する単語や表現が数多く見られる」(一三六頁)。例えば、インド・ヨーロッパ語族に属する諸言語の親族名称の中でも、「父」と「母」を表す基本単

「母」は、英語では *mother*、スペイン語では *madre*、ドイツ語では *Mutter*、そしてペルシア語では *madar* である。

さらに、インド・ヨーロッパ語族の諸言語では、日本語に比べ、いわゆる人称代名詞の形態は基本的に極めて限られている。このことはペルシア語においても同様である。「自称詞」にあたるペルシア語の一人称単数の代名詞は、英語では、主格「I」、目的格 *me*、スペイン語では *yo*、ドイツ語では *Ich*、そしてペルシア語では *man* である。会話の聞き手を表す二人称単数の主格は、英語では *you*、スペイン語では *tú*、ドイツ語では *Du*、丁寧形は *Sie*、ペルシア語では *to*、丁寧形が *shomā* である。

3 父母に対する呼びかけ方

3-1 父母に対する呼格的用法の対称詞

表2・3からわかるように、小学生の回答者は、男女共に、父親に対して「*bābāyi* (ババー)」、母親に対して「*māmāni* (マミー)」と呼びかける者が比較的多い。それに次いで多い呼びかけ方は、男女共に、父親に対しては「*bābā jān* (ババちゃん)」、「*bābā + esm* (ババ + 名前)」、母親に対しては「*māmān jān* (ママンちゃん)」である。この場合の「*jān*」は、日本語の「ちゃん」に相当する接尾表現である。

語は、今でも非常に似た形態を残している。「父」は、英語では *father*、スペイン語では *padre*、ドイツ語では *Vater*、そして本稿の研究対象であるペルシア語では *pedar* である。また、

表2：父に対する呼格的用法の対称詞

レベル 項目	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
pedar	2	1	2	2	3	3	4	4	4	4
pedar jân	1	2	2	2	2	3	2	3	1	4
bâbâ	4	4	8	4	11	7	13	10	15	10
bâbâyî	7	7	4	6	—	5	—	2	—	1
bâbâ jân	6	5	2	5	2	4	2	2	—	2
bâbâ + esm	5	5	6	4	5	2	2	2	2	2
いない	—	1	1	2	2	1	2	2	3	2
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表3：母に対する呼格的用法の対称詞

レベル 項目	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
mâdar	2	1	2	2	4	3	4	4	4	4
mâdar jân	1	2	3	2	2	3	2	3	2	4
mâmân	4	4	8	5	16	8	16	11	17	12
mâmânî	11	9	4	8	—	6	—	2	—	1
mâmân jân	6	6	6	7	2	3	1	3	—	3
mâmân + esm	1	1	1	—	—	1	—	—	—	—
いない	—	2	1	1	1	1	2	2	2	1
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

次に中学生男子の場合、父親に対しては「bâbâ (بابا)」が最も多く用いられ、「bâbâ (بابا) + 名前」がそれに次ぎ、この二つの呼びかけ方が半数以上を占めている。一方、母親に対しては「mâmân (مامان)」が最も多く、次いで「mâmân jân (مامانچان)」であり、この二つの呼びかけ方が半数以上を占める。女子は、まず「bâbâyî (بابای)」「mâmânî (مامانی)」「mâmân jân (مامانچان)」に「mâmân jân (مامانچان)」

そして「bâbâ (بابا)」が順に多い。高校生男子は「bâbâ (بابا)」が最も多く、それに次ぐのが「bâbâyî (بابای)」「mâmânî (مامانی)」であるが、男子は一人も「bâbâyî (بابای)」を使用しない。大学生の間では、男女共に「bâbâ (بابا)」が最も多く用いられている。

社会人は、男女共に「bâbâ (بابا)」が最も多く使用している。両親に対して用いられる呼格的用法の対称詞には、話し手、また聞き手の性差による違いが明確に確認された。まず、宗教・社会的慣習により、父親に比べ、女性である母親に対しては、実名を含む対称詞が用いられる割合が低い。また、男子は女子に比べ、年齢的に若い中学生の時期には、「bâbâyî (بابای)

表4：父に対する代名詞的用法の対称詞

レベル 項目	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
shomā	15	15	9	11	5	13	13	15	16	16
shomā, to	10	9	15	12	15	9	6	4	2	3
hazf	—	—	—	—	3	2	4	4	4	4
いない	—	1	1	2	2	1	2	2	3	2
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表5：母に対する代名詞的用法の対称詞

レベル 項目	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
shomā	15	14	9	11	5	13	12	14	17	16
shomā, to	10	9	15	13	16	9	7	5	2	4
hazf	—	—	—	—	3	2	4	4	4	4
いない	—	2	1	1	1	1	2	2	2	1
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

「mamani (ママー)」「baba jan (ババちゃん)」「maman jan (ママンちゃん)」のような幼げな表現を用いる人数が減り、前者は高校生以上の回答者には用いられず、後者も社会人の回答者は使用していない。

また、小学生から社会人まで、男女共に、両親に対する呼称の用法の対称詞として用いられるのは親族名称、または親族名称が含まれる表現のみであったことも分かった。

のみを使う回答者の三倍の一五名であった。これに対し、女子は両親に対して「shomā (あなた)」を使うと答えた回答者のほうが多く、二五名のうち半数を超えた。「shomā, to (あなた, 君)」を併用する者は九名であった。

大学生の回答者は、男女共に「shomā (あなた)」という人称代名詞を使うと答えた者が二五名のうち半数前後に達した。すなわち大学生男子は、「shomā (あなた)」という人称代名詞を使う人数が高校生男子の倍以上であった。

3-2 父母に対する代名詞的用法の対称詞

小学生の男女共に、両親に対する代名詞的用法の対称詞として、「shomā (あなた)」という人称代名詞の二人称単数丁寧形を使うと答えた者が二五名のうち半数を超えている。そして、残りの一〇名前後は「shomā, to (あなた, 君)」、すなわち人称代名詞の二人称単数普通形と丁寧形を併用している。「to (君)」のみを使う回答者は一人もいなかった。

中学生では小学生とは逆に、両親に対して「shomā, to (あなた, 君)」を併用すると答えた回答者の人数のほうが多い。特に、男子の場合、その差が大きい。

高校生では、男子のうち両親に対して「shomā, to (あなた, 君)」を併用する者は、「shomā (あなた)」

社会人の回答者は、男女共に「shomā (あなた)」という人称代名詞を使うと答えた人数が高校生に比べさらに多く、「shomā to (あなた、君)」を併用する者は非常に少ない。

なお、高校生から社会人まで、男女の間で、両親との会話では、人称代名詞を「haz (省略)」しているという回答者が確認された。

このようにペルシア語では、主語となる人称表現は、一般的に特に強調される場合や尊敬表現以外では省略される。次に例を示す。

- (1) ni-ravi (人称代名詞二人称単数普通形)は) 行く。
- (2) ni-ravid (人称代名詞二人称単数丁寧形/複数形 shomā は) 行く。

一般的に、ペルシア語の人称代名詞の二人称単数形「o (君)」は、家族、身内、友人などの親しい相手とイスラーム教の唯一神に対してのみ用いられる。家庭の中でも家庭環境や家族内の地位関係などにより使用頻度には個人差がある。

いずれにせよ、両親に対して用いられる代名詞的用法の対称詞には親族名称は用いられず、二人称の人称代名詞が使用されており、話し手の年齢と性差により普通形と丁寧形の選択には差異や変化が確認された。高校生以上では、人称代名詞を意図的に省略する者が見られる傾向がある。

4 祖父母に対する呼びかけ方

4-1 祖父母に対する呼格的用法の対称詞

祖父に対する呼格的用法の対称詞は、二五〇名の回答者のうち、小学生から社会人までの男女にほぼ共通して「āqā jān (おじいちゃん)」が四五名で最も多く、次いで「bābā jān (パちゃん)」三六名、「āqā (旦那)」三三名、「bābābozorg (おじいちゃん)」三〇名である。一方、祖母に対しては、小学生から社会人まで男女共に「āqā jān (おじいちゃん)」に対応する「khanom jān (おばあちゃん)」という表現はほとんど使用していない。また、祖父に対して使用されている「āqā (旦那)」に対応する「khanom (御婦人)」という表現は全く用いられていない。その代わりに祖母に対して最も多く使用される表現は、「āziz (最愛の人)」(五五名)、「āziz jān (最愛の人+ちゃん)」(四九名)、次いで「nānān jān (ヤマンちゃん)」(四二名)、「mānān-bozorg (大ききヤマン)」(二四名)である。

4-2 祖父母に対する代名詞的用法の対称詞

表8・9からわかるように、祖父母に対する代名詞的用法の

表 6：祖父に対する呼格的用法の対称詞

項目	レベル		回答者									
			小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
āqā-bozorg	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
pedar-bozorg	1	2	1	2	2	1	2	1	1	1	1	1
bābā-bozorg	2	3	3	2	3	4	4	3	2	4	2	4
aqā jān	5	5	6	5	5	4	3	4	5	3	5	3
bābā jān	4	4	4	5	3	4	3	4	3	2	3	2
bābāyi	3	2	2	2	3	1	1	—	—	—	—	—
bābā + esm	1	1	2	2	—	1	2	2	2	2	1	1
bābā + esm-e □āmū	3	2	2	—	2	2	2	2	3	3	3	3
bābā + esm-e □amme	1	1	—	—	2	1	1	—	—	—	—	—
āqā	2	2	3	3	1	3	4	5	5	5	5	5
いない	2	2	1	3	3	2	2	2	2	4	2	4
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

対称詞の使用傾向は、男女共に世代が上がるにつれて「shomā (あなた)」という人称代名詞を使用する回答者の割合が上がり、「shomā, to (あなた、君)」を併用する者は減少する。両親に

表 7：祖母に対する呼格的用法の対称詞

項目	レベル		回答者									
			小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
khānom-bozorg	1	1	—	—	—	1	—	1	2	2	2	2
mādar-bozorg	1	2	1	2	1	1	1	—	1	2	1	2
māmān-bozorg	2	3	2	2	2	2	2	3	2	4	2	4
khānom jān	1	—	—	1	1	—	—	1	1	—	—	—
māmān jān	4	2	4	5	4	4	4	5	6	4	6	4
māmāni	3	2	3	3	2	2	1	—	—	—	—	—
māmān+esm-e □āmū	1	1	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1
māmān+esm-e □amme	1	2	1	1	1	1	1	—	—	—	—	—
āziz	7	6	6	4	4	5	6	6	6	5	6	5
aziz + jān	4	4	5	5	6	5	5	6	4	5	4	5
いない	—	2	2	1	2	2	3	1	2	2	2	2
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

対する代名詞的用法の対称詞の調査結果のように、話し手の性差による差異や、年齢の上昇による「shomā (あなた)」を使用する者と「shomā, to (あなた、君)」を併用する者の人数の

表8：祖父に対する代名詞的用法の対称詞

レベル 項目	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
shomā	14	13	12	13	14	15	16	16	16	17
shomā, to	9	10	12	9	7	6	4	5	3	2
hazf	—	—	—	—	1	2	3	1	4	2
いない	2	2	1	3	3	2	2	2	2	4
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表9：祖母に対する代名詞的用法の対称詞

レベル 項目	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
shomā	14	12	13	13	14	14	15	15	17	18
shomā, to	11	11	10	11	9	9	6	7	4	4
hazf	—	—	—	—	—	—	1	2	2	1
いない	—	2	2	1	2	2	3	1	2	2
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

逆転は確認されない。また、男女共に、祖父に対しては高校生、大学生、社会人世代に、祖母に対しては大学生、社会人世代に、対称詞としての人称代名詞を「hazf (省略)」する回答者が確認された。このように祖父母に対する代名詞的用法の対称詞には、親族名称は用いられず、二人称の人称代名詞が使用されている。そして父母に対する対称詞に比べ、性差や年齢による違いはあまり確認されないことがわかった。

5 兄姉に対する呼びかけ方

5-1 兄姉に対する呼格的用法の対称詞

兄に対して用いられている呼格的用法の対称詞のうち親族名称は、トルコ語起源の「兄弟」を意味する口語表現「dādāsh (兄さん)」「dādāsh jan (兄ちゃん)」などは、ペルシア語起源の兄弟を意味する単語「Barādar (お兄さん)」である。一方、姉に対する親族名称は、トルコ語起源の「姉妹」を意味する口語表現「ābāi (姉ちゃん)」「ābāi + esm (姉さん+名前)」「ābāi jan (姉ちゃん)」「ābāi + esm (姉さん+名前)」「ābāi jan (姉ちゃん)」である。イランでは、現在も女性に比べ男性を尊重する宗教的・社会的伝統が残っており、それが兄と姉に対する呼びかけ方に若干影響していると考えられるが、兄姉に対する呼格的用法の対称詞の使用について、性差や年齢による違いは少ないと言えよう。

5-2 兄姉に対する代名詞的用法

表12・13からわかるように、兄・姉に対する代名詞的用法の対称詞として、小学生は、男女共に、二人称単数丁寧形の人称代名詞「shomā (あなた)」を用いることが多い。それは前述

表 10：兄に対する呼格的用法の対称詞

項目 \ レベル	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
dādāsh	2	3	2	4	1	3	1	3	2	3
dādāsh + esm	2	3	2	2	2	3	2	3	1	2
dādāsh jān	1	1	1	2	—	2	—	—	—	1
barādar	1	2	2	3	2	2	1	1	2	2
seyyed + esm	3	3	3	2	3	2	2	3	2	2
esm	11	8	11	8	14	10	14	12	15	12
いない	4	5	4	4	3	3	5	3	3	3
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

のように、どの家庭でも、子どもに、幼少時から小学生頃までに、「shomā (あなた)」と「to (君)」の使い分けを覚えさせるために、家族にも「shomā (あなた)」という表現を使用させるからである²⁰⁾。

中学生、高校生は、男女共に「shomā, to (あなた、君)」を併用する者と親しみを示す人称代名詞「to (君)」のみを用いる者がほぼ同人数であるが、ただ兄に対して「to (君)」のみ

表 11：姉に対する呼格的用法の対称詞

項目 \ レベル	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
ābāji	1	2	1	1	1	2	1	2	1	2
ābāji + esm	1	3	1	2	2	2	—	—	1	1
ābāji jān	1	1	—	1	—	—	1	—	—	—
khwāhar	1	1	1	2	1	1	—	2	2	3
sādāt	2	3	3	2	2	3	2	4	—	—
esm	16	11	16	13	17	13	17	14	18	16
いない	3	4	3	4	2	4	4	3	3	3
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

併用する者は、兄に対する場合に比べ多く見られる。

兄弟に対する代名詞的用法の対称詞についてまとめると、「dādāsh (兄さん)」「ābāji (姉さん)」等のいわゆる親族名称は使われず、人称代名詞である「shomā (あなた)」「to (君)」が用いられている。兄弟に対する代名詞的用法は性差により変わらぬが、兄に対しては、呼びかける者の年齢と地位が上がると「to (君)」という人称代名詞の使用が減少することが明

を用いる女子は相対的に少ない。大学生は男女共に、兄に対して敬意を示す「shomā (あなた)」という人称代名詞を使う者が、姉に対する場合に比べ多い。ただし、兄に対してのみならず姉に対しても「to (君)」のみを使用する回答者は少ない。社会人でも、兄に対して「shomā (あなた)」を用いる者が姉に対してに比べ多く、兄に対して「to (君)」のみを使う回答者は一名もない。一方、姉に対して、「shomā, to (あなた、君)」を

表 12：兄に対する代名詞の用法

レベル 項目	兄に対する代名詞の用法									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
shomā	12	12	5	6	5	6	10	12	15	16
shomā, to	6	7	8	9	9	11	6	7	7	6
to	3	1	8	6	8	5	4	3	—	—
いない	4	5	4	4	3	3	5	3	3	3
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表 13：姉に対する代名詞の用法

レベル 項目	姉に対する代名詞の用法									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
shomā	13	11	6	5	6	5	6	8	7	7
shoma, to	7	8	8	8	9	9	12	12	13	13
to	2	2	7	8	8	7	3	2	2	2
いない	3	4	3	4	2	4	4	3	3	3
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

らかになった。

6 弟妹に対する呼びかけ方

6-1 弟妹に対する呼格的用法の対称詞

父親が“seyved”の家庭に属する回答者は、弟や妹に対して、“seyved”、“sadat”と呼びかける。その他の家庭では、弟や妹に「名」のみで呼びかける者が多い。兄弟と姉妹に対して使用す

る親族名称は共通している。しかし、「dādāsh (兄弟)」「という名詞の変形である“jādāsh”は弟に対して多く用いられており、兄に対してはあまり使われていない。また、男女ともに弟妹に対して親族名称で呼びかける回答者が見られるが、非常に少ない。

なお、「dādāsh (兄さん)」「dādā (姉さん)」というトルコ語の親族名称は、ベルシア語に入った頃には兄弟に対して使用されていたが、現在は、特に弟妹に対する親族名称として用いられている。

以上より、弟妹に対する呼格的用法は性別や年齢による違いはないことが明らかになった。

6-2 弟妹に対する代名詞の用法

弟・妹に対する代名詞の用法の対称詞に関する調査によると、小学生から高校生までは男女共に「ō (君)」を使用する者が非常に多いが、大学生は「shoma, to (あなた、君)」を使用する人数が高校生に比べ多く、社会人は「to (君)」のみを使用する人は少なく、「shoma, to (あなた、君)」が多い。

弟妹に対して敬意を示す人称代名詞「shomā (あなた)」を使用する回答者は、小学生から社会人まで男女合わせて三一名確認された。

表 14：弟に対する呼格的用法の対称詞

項目 \ レベル	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
dādāsh	—	2	—	3	—	3	—	3	—	4
dādāsh + esm	—	2	—	1	—	—	—	2	—	1
dādāsh jān	—	—	—	1	—	1	—	—	—	1
dādāshī	—	1	—	—	—	2	—	1	—	1
seyyed + esm	3	2	2	2	1	2	2	2	—	—
esm	19	14	20	16	22	13	21	14	25	17
いない	3	4	3	2	2	4	2	3	—	1
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表 15：妹に対する呼格的用法の対称詞

項目 \ レベル	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
ābāji	1	1	—	1	1	—	1	—	—	—
khwāhar	1	—	—	1	—	—	1	—	1	—
esm	18	19	21	17	17	21	22	21	21	24
esm + sādāt	2	1	2	2	3	1	—	2	1	1
いない	3	4	2	4	4	3	1	2	2	—
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

る呼格的用法と代名詞的用法として用いられる様々な対称詞の使い分けの実態を調査してきた。分析の結果、以下のような結果が得られた。

(1) 両親、祖父母に対する対称詞

● 父母、祖父母に対する呼格的用法の対称詞のバリエーションは豊富である。

● 子の父母、孫の祖父母に対する呼格的用法の対称詞は、親族名称が多い。

● 子が父母に対して用いる呼格的用法の対称詞の使用に年代による違いがある。上の年代ほど、シンプルな人称表現「dābā (ババ)」「māman (ママ)」を好み、そうした傾向は男子のほうが顕著である。一方、孫が祖父母に対して用いる呼格的用法の対称詞使用にはあまり違いがない。

● 子の父母、孫の祖父母に対する代名詞的用法の対称詞は、人称代名詞のみである。

● 父母・祖父母に対する代名詞的用法の対称詞は、「shomā

このようにベルシア語では、「弟・妹」に対し、呼格的用法は名前前で呼びかけ、代名詞的用法としては二人称表現の「shomā, to (あなた、君)」を併用するのが一般的である。

おわりに

本稿では、テヘラン在住のベルシア語を母語とする小学生から社会人に対して行ったアンケート調査に基づき、家族に対す

表 16：弟に対する代名詞的用法の対称詞

レベル 項目	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
shomā	3	2	2	1	1	2	2	2	2	3
shomā, to	4	5	4	8	6	5	10	9	19	18
to	15	14	16	14	16	14	11	11	4	3
いない	3	4	3	2	2	4	2	3	—	1
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

表 17：妹に対する代名詞的用法の対称詞

レベル 項目	回答者									
	小		中		高		大		社	
性差	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
shomā	2	2	3	1	2	2	2	2	2	3
shomā, to	6	3	6	4	5	5	10	11	14	16
to	14	16	14	16	14	15	12	10	7	6
いない	3	4	2	4	4	3	1	2	2	—
合計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25

・「あなた」が用いられるのが原則だが、父母の場合、思春期には男子を中心に「o(君)」を併用する人が増加する傾向がある。祖父母の場合は幼いころから「o(君)」が併用され、年齢が上がると共にその数が減少する傾向がある。また、父母に対しても祖父母に対しても、大人になると相手のことを省略して呼ばないようにする人が男女ともに出現する。

・父母や祖父母に対して呼び捨ては使用しない。

(2) 兄弟に対する人称表現

- ・弟妹の兄弟に対する呼格的用法の対称詞は、名前が中心であり、親族名称がそれに続く。
- ・名前で呼びかけるのは男子のほうが女子よりも若干多い。
- ・兄に対する親族名称の使用は姉に対してより多い。
- ・弟妹は兄弟との対話において、人称代名詞のみで呼びかける。
- ・兄の場合は、低い年代では「shomā(あなた)」が中心で、思春期になると「o(君)」の併用や単独使用が一時的に増加するが、大人になるにつれて「shomā(あなた)」の単独使用に戻る傾向がある。姉の場合も、途中までは似た傾向であるが、大人になって主流になるのは「shomā(あなた)」「o(君)」の併用である。

(3) 弟妹に対する人称表現

- ・兄弟は弟妹に対して名前前で呼ぶことが一般的であるが、親族名称が使われることもある。
- ・男女・年齢の別による呼格的用法の対称詞の差はあまり見られない。

- 姉妹は弟妹に対して人称代名詞のみで呼びかける。
- 弟妹とも、低い年代では「お(君)」が中心で、大人になるにつれ「shoma(あなた)」「to(君)」の併用に移行する。

上記の結論を社会言語学的な観点から整理し直すと、以下の五点にまとめられる。

- ① 対称詞の呼格的用法と代名詞の用法の間には明確な境界線がある。呼格的用法では、父母・祖父母に対しては親族名称が中心であり、兄弟姉妹に対しては名前が中心である。代名詞の用法は「shoma(あなた)」「to(君)」という人称代名詞の選択が中心であり、省略される場合もある。
- ② 呼ぶ側の年代による違いがある。一つは思春期に見られ、父

母や姉妹に対し、代名詞的用法に「お(君)」が増える傾向がある。もう一つは成人期に見られ、父母や姉妹に対する「to(君)」が「shoma(あなた)」に戻ったり、省略されたりする。しかし、祖父母や弟妹に対してはあまり違いがない。

- ③ 呼ぶ側の性差による違いはあるが、一般にイメージされるほど大きなものではない。女子は男子に比べて、父母に対して愛称をつける傾向が多かったり、姉妹に対して名前の呼び捨てを避けるケースが多かったりするところに見られるくらいである。

- ④ 目上・目下という考え方も明確に見られる。対称詞の呼格的用法では、父母・祖父母を名前のみで呼ばず、親族名称で呼ぶのも目上に対する敬意の表れであるし、姉妹を呼ぶときは「shoma(あなた)」が中心であり、弟妹を呼ぶときは「to(君)」が中心であることからその点は窺い知れる。

註

(1) 吉枝聡子 (2000) 『ペルシア語文法』東京外国語大学教科書シリーズ' p.15.

(2) Ferdowsi (2007) p. 149.

参考文献

- (1) Aghagholzadeh Ferdows (2011) "A Critical Discourse Analysis on Terms of Address in Persian" Intl. J. Humanities (2011) Vol. 18 (1) : pp. 565-575.
- (2) Dehhoda, A., (1947) *Loghat-nāme-ye Dehhodā*, Tehran.
- (3) Ferdowsi, (2007) *Tarz-e barkhorrd bā bachchehā*, Tehran.
- (4) Hamadani, Rashid al-Din Fazl al-Allāh, (1993) *Jam al-tawārikh*, Tehran.
- (5) Keshāvarz, Mohammad Hossein (1988) "Forms of Address in Post-Revolutionary Iranian Persian. A Sociolinguistic Analysis." *Language in Society*, 17: pp. 565-575.
- (6) Mūsavi, Kazem (2006) *Farhang va loġhat-e eslami*, Tehrān.
- (7) Saberi, K. (2002). *A Study of Understanding Level of Non-Farsi Speakers of the Social Functions of Persian Address Terms as a Second Language*. M. A. thesis, Tehran: Allame Tabatabaei University.
- (8) 小杉泰『ペルシア語辞典』(2002) 岩波書店
- (9) 国広哲弥 (1990) 『辞林』諸問題』『日本語学』9-9' pp. 4-7' 明治書院
- (10) 鈴木孝夫 (1973) 『ウイッチュ文化』岩波新書
- (11) 吉枝聡子 (2000) 『ペルシア語文法』東京外国語大学教科書シリーズ' p.152 A.

資料

- (12) シンラムプー ル マホルフマヌル (2003) 「souré kahf」 『gho-
ran』 14-43' シンニン出版
- (13) シンラムプー ル マホルフマヌル (2003) 「souré kahf」 『gho-

- ran』 4-36' シンニン出版
- (14) シンラムプー ル マホルフマヌル (2003) 「souré kahf」 『gho-
ran』 pp. 17-23' シンニン出版
(せんらむびだんしゅ・あむち／博士後期課程)